NPO

花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会

Therapeutic Promotion Society for Pollinosis and Rhinosinusitis

VOL.3

www.hanamizu.jp

巻頭のご挨拶
NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会
「パンフレット（第3号）」の刊行によせて

「アレルギー性鼻炎・花粉症に対する免疫療法元年」
－「スギ花粉症」に続いて「ダニ・アレルギー」に対しても始まる！－

平成25年10月16日設立の当特定非営利活動（NPO）法人 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会（以後 NPO）も2年余が経過しました。この間、市民講座としては、2回の花粉症市民講座（平成26年、平成27年、2月、東京都千代田区）に加えて1回のアレルギー性鼻炎・花粉症秋季市民講座（平成27年10月、川崎市、中原区、武蔵小杉）を開催してきました。市民講座の開催をはじめとした市民の皆様への啓発事業は、当NPOの活動の要の1つです。今後とも充実をはかりつつ継続して参ります。

さて、秋の市民講座を臨時で本年開催した理由のひとつでもありますが、昨年のスギ花粉症に対する舌下免疫療法に加えて、今年はダニによるアレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法も始まりました。あるマスコミは、「免疫療法元年」として紹介しています。当NPOとしてもメモリアルな年と考え、アレルギー性鼻炎や難治性副鼻腔炎に対する研究（会）支援なども含め、設立の趣旨を堅持し「社会貢献」の精神を大切にしていきたいと思います。何卒宜しく温かいご支援をいただけますようお願い申し上げます。

ホームページ http://hanamizu.jp/

最後に、本パフレットの発行の目的についてご紹介させていただきます。

1.当NPOの（定期）花粉症・市民講座（毎年2月）の開催のテキストとして。*参加申し込みも兼ねて。
2.当NPOを紹介しその存在を知っていただくきっかけとして。
3.当NPOのホームページ（http://hanamizu.jp/）にアクセスいただくきっかけとして。
4.当NPOの活動の紹介。
5.当NPO応援団（企業）のご紹介。

平成28年1月10日

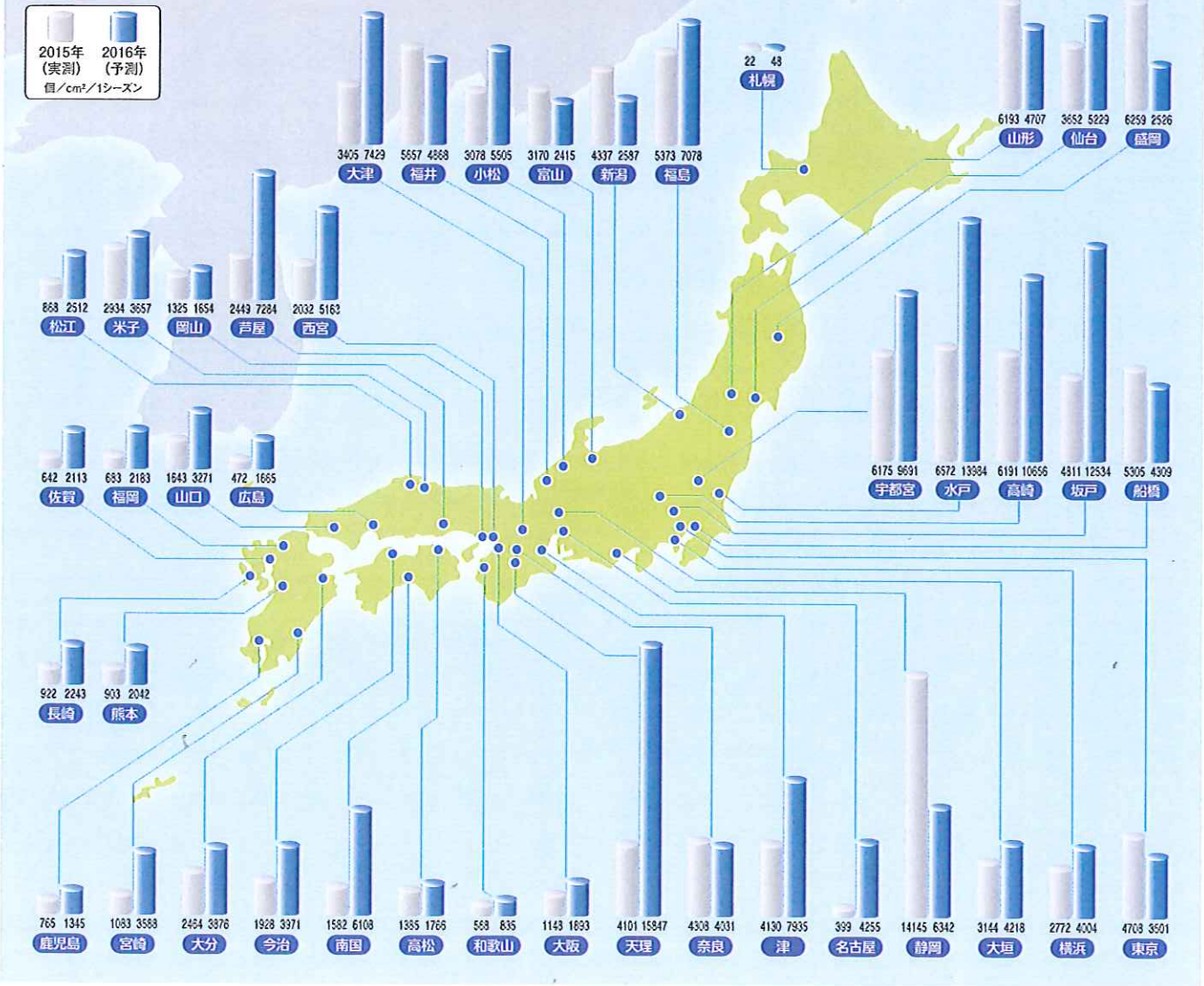
特定非営利活動法人
花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会
理事長　大久保公裕

2016年春の花粉は、北陸から東海の一部を除いて前年を上回る地域が多いでしょう。

東北から近畿にかけては、過去の平均より多くなる地域もあり、山沿いでは1万個/cm²を超える見込みです。昨年に続いて日照時間が少なくなった西日本では平均よりやや少なくなりますが、前年の2倍から3倍になる見込みです。

スギやヒノキの花粉は前年夏の気象条件に大きな影響を受けます。特に日照時間の影響が大きく、ヒノキは気温の影響も無視できません。2015年の7月の気温は東日本でやや高く、西日本はやや低くなりました。また、7月の日照時間は東海から西では平年よりやや少なく、他はやや多くなりました。8月の日照時間は全国的に平年並かやや少なくなりました。花粉数は前年に少ないと翌年は気象条件が多少悪くても増加する傾向があり、日照時間がやや少なかった西日本でも前年よりは花粉が増加する見込みです。予想では2000個以下の地域はほとんどなく、花粉症の方は早めの対策が必要です。

2016年春の各地の花粉飛散量予測



村山貢司先生と田辺三菱製薬のご厚意による

アレルギー週間「第3回 花粉症市民講座」

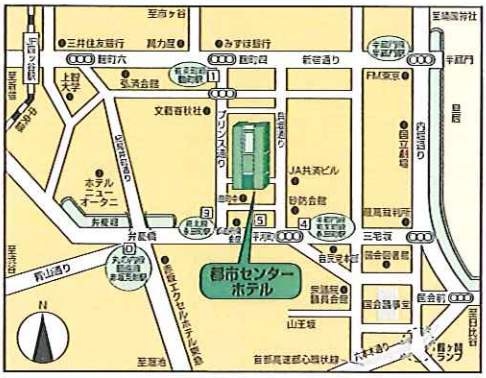
花粉症の重大症状と治療最前線

［主催］特定非営利活動法人（NPO）花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会

花粉症の季節が近づいてきました。症状がひどくなると日常生活にも影響を与えかねません。
正しい知識をもって対処するために、今年の花粉予測や食事による予防策など、
役立つ情報を専門家を交えて紹介します。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

日　時　平成28年2月11日（木・祝）　13:00～15:00（12:30受付開始）

場　所　都市センターホテル　6階
東京都千代田区平河町2-4-1
TEL:（03）3265-8211



アクセス
- ●東京メトロ 有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」徒歩4分
- ●東京メトロ 有楽町線「麹町駅」徒歩4分
- ●東京メトロ 丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩8分
- ●JR中央線「四ッ谷駅」徒歩14分

参加費　無料

定　員　150名（※定員になり次第、募集を終了します。）

講演内容　アレルギー性鼻炎・花粉症、鼻呼吸障害、睡眠障害治療、舌下免疫療法

司　会　宮本昭正先生　公益財団法人 日本アレルギー協会 理事長

講　師　大久保公裕先生　日本医科大学大学院　頭頸部・感覚器科学　教授
松根彰志先生　日本医科大学　耳鼻咽喉科学　教授

お申し込み方法

●FAXでお申し込みの方
以下の項目を明記のうえ、FAXでお申し込みください。整理番号等を書いた受講証を返信先FAX番号にお送りします。
①受講者の氏名（2人まで）　②返信先FAX番号　③日中連絡先電話番号（2カ所まで）
お申し込み先　NPO法人　花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会「花粉症市民講座」事務局
FAX.044-711-8565

●ホームページでお申し込みの方
http://hanamizu.jp/
にアクセスいただき、専用フォームにご入力ください。整理番号等を書いた受講証を返信先メールアドレスにお送りします。

●締切：平成28年2月1日（月）　※電話でのお申し込み等は受け付けていません。

【司会】
宮本昭正
日本臨床アレルギー研究所所長、新橋アレルギー・リウマチクリニック院長、
国際アレルギー・臨床免疫学会の会長、日本アレルギー学会の理事長などを歴任。
喘息、内科、アレルギー、呼吸疾患、リウマチ・膠原病が専門分野で多方面で活躍している。

第1部 講演「花粉症、鼻呼吸障害、睡眠障害、小児の発育障害」

【講師】
松根彰志
NPO 花粉症·鼻副鼻腔炎治療推進会　副理事長、事務局長

1984年　鹿児島大学医学部医学科卒業、1988年　鹿児島大学大学院医学研究科修了
1988年～1990年　ピッツバーグ大学（アメリカ合衆国、ペンシルバニア州）留学
2000年～2011年 鹿児島大学医学部 耳鼻咽喉科·頭頸部外科　助教授 / 大学院　准教授

日本医科大学医学部　耳鼻咽喉科学　教授
日本医科大学武蔵小杉病院　耳鼻咽喉科部長、病院研究委員会·委員長
日本耳鼻咽喉科学会　代議員、日本アレルギー学会　代議員、
日本鼻科学会　代議員、学会誌編集員会　委員
耳鼻咽喉科感染症·エアロゾル学会　代議員、学会誌編集員会　委員

アレルギー性鼻炎の鼻閉は、アデノイド増殖症や扁桃肥大などとともに、小児における睡眠障害の原因となります。これは、就学前後のお子さんの身体的な発達障害の原因となり得ますし、家庭·学校生活での日中の眠気や注意欠陥多動障害（ADHD）と似た注意力散漫の原因となり、その結果、学習能力の低下や「イライラ·落ち着きのない問題児」として扱われることにもなったりします。こうしたお話をさせていただきます。

アレルギー性鼻炎の症状は、くしゃみ、鼻水、鼻づまりが3主徴といわれていますが、これに目のかゆみ、のどのイガイガ等が主な症状として有名です。最近、いろいろな作用点をもつお薬が医療の現場で使えるようになり、症状を抑える効果が期待できるだけでなく眠気などの副作用もあまりないようになりました。しかし、鼻づまりはなかなか頑固でこうした治療でも十分な効果があげられないこともあります。そして、鼻づまりは鼻で息ができない「鼻呼吸障害」の原因となります。

さらに、就学前後では、鼻の奥にあるアデノイドと呼ばれる扁桃の1つが大きくなり、鼻からのどにかけての部分を塞いだり狭くすることがあり、花粉症を含めたアレルギー性鼻炎による「鼻呼吸障害」がもっと深刻になります。これは、小児における重大な睡眠障害を引き起こす典型的なパターンの1つです。その結果、家庭や学校生活で落ち着きのない態度や問題行動に結びつきやすくなります。これらは、まわりのおとなが気を付けてあげることにより、予防できるあるいは治療できる病気なのです。

成人でも鼻呼吸障害は種々の問題を引き起こします。確かに、鼻で息ができなくても口で息ができるわけですが、本来ヒトは鼻で呼吸を行い、口では飲食や言葉を発するというのが基本であり本来の姿です。「鼻呼吸障害」があるがために口呼吸を続けていると、口の中やのどの乾燥の原因となり、のどの痛みを引き起こします。また、睡眠時のいびきや睡眠障害の原因ともなります。これが一定の程度に達すると「睡眠時無呼吸症候群」という病気なることもあります。「睡眠時無呼吸症候群」は決して肥満とだけ結びついているわけではないのです。睡眠障害は、昼間の眠気や集中力の低下と直結し、会議や授業中の居眠り、自動車運転事故をはじめとする、仕事や学校生活での作業効率、安全性、学習効果に悪影響を確実に及ぼします。更には、高血圧、不整脈などの循環器疾患や脳血管障害、糖尿病といった代表的な「生活習慣病」の発症リスクを高め、それらに対する治療効果を低下させます。

アレルギー性鼻炎における鼻呼吸障害は、小児でも、成人でも早期に確実に治してあげたい症状です。

第2部 講演「舌下免疫療法、花粉症に続いてダニ・アレルギーでも始まります

【講師】
大久保公裕
NPO 花粉症・副鼻腔炎治療推進会　理事長

1984年 日本医科大学　卒業、 1988年　日本医科大学大学院修了
1989年～1991年　アメリカ国立衛生研究所(NIH)留学

日本医科大学大学院　医学研究科　頭頸部・感覚器科学分野教授
日本耳鼻咽喉科学会　代議員
日本鼻科学会　理事
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会　理事
日本アレルギー学会　常任理事
第63回日本アレルギー学会秋季学術大会(2013年、東京)会長

「花粉症、アレルギー性鼻炎とは」

日本におけるスギ林の面積は全国の森林の18%、国土の12%を占めています。このためか花粉症の患者さんの約70%はスギ花粉が原因で、2008年の調査では人口の26.2%という有病率が示されています。

人体にとって異物であるスギ花粉抗原が体内にはいると、まず異物を認識するマクロファージという細胞と出会います。このマクロファージが得た異物に対する情報がリンパ球の1種類であるT細胞に送られます。このマクロファージのHLAという異物排除を選択する因子とスギ花粉の情報、そしてT細胞が結びつき一つの複合体を形成します。複合体が形成されるとT細胞が花粉抗原の情報を同じリンパ球のB細胞へ送り、花粉抗原と反応するIgE抗体が作られます。しかし、この一連の流れで作られたIgE抗体と抗原が反応することにより身体にとって有害な状態が生じます。これがアレルギー反応です。

スギ花粉症はこのように異物である花粉から体を守ろうとするため、くしゃみで吹き飛ばす、鼻水で洗い流す、鼻づまりで入れなくするなどの防御で症状が起こっています。眼の症状である、かゆみ、流涙も同様です。このメカニズムはダニ(ハウスダスト)でも同様です。

「最新の治療」

花粉症を含むアレルギー性鼻炎の治療は他の鼻や眼のアレルギーの治療と基本的には同じですが、急激に花粉にさらされたために起こる急性の強い症状への配慮も必要となります。治療法を大きく分けると症状を軽減する対症療法と根本的に治す根治療法の二つがあります。

対症療法:点眼、点鼻薬などによる局所療法
内服薬などによる全身療法
レーザーなどの手術療法
根治療法:原因抗原(花粉、ホコリなど)の除去と回避
アレルゲン免疫療法(減感作療法)

薬物療法で最も多く使用される抗ヒスタミン薬は鼻粘膜の上皮のヒスタミン受容体に結合して、アレルギー反応が起こって肥満細胞からヒスタミンが出されても症状が出ないようにします。抗ヒスタミン薬は多かれ、少なかれ眠気が出ることがあります。現在の考え方ではやはり第2世代の副作用の少ない薬剤の処方が望まれます。また非常に症状が悪化する場合には花粉飛散季節中の連続的な薬剤使用が望まれます。

これら治療法を上手に使い分ければ約7割の花粉症患者さんが副作用もなく、症状がほとんど出現せず花粉飛散季節を過ごせることが分かっています。

「アレルゲン免疫療法、特に舌下免疫療法」

現在、花粉症の治療としては症状を抑える治療（対症療法）が主流となっていますが、この対症療法では花粉症を治すことはできません。これまでに分かっている花粉症（アレルギー性鼻炎）を治すことのできる唯一の治療法は、『アレルゲン免疫療法）』という治療法です。これは、アレルギーを引き起こす原因となっている物質（花粉）を、定期的に体内に入れることで、徐々にアレルギー反応の起きない体質に変えていく治療法です。日本でも皮下注射法が認可されていますが、今までの皮下免疫療法では2年以上通院し注射を打たないといけないことや、実施している医療機関が少ないことが理由であまり普及していません。そこで、注射と同じ抗原エキスを舌の下に保持して、口の粘膜から花粉を吸収する方法です。この舌下免疫療法は欧米では既に認められた方法で、自宅でも行うことができることから、皮下注射法に比べ、通院回数が少なく、苦痛の少ない方法として、より普及が期待されています。

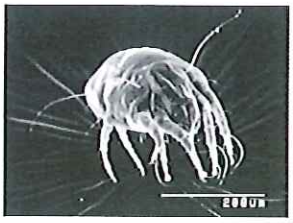
舌下免疫療法は現在スギ花粉症ではすでに行われ、多くの患者さんが症状の改善を実感しています。また通年性アレルギー性鼻炎のダニ抗原に対してもこの冬から薬剤が発売されました。長期にわたる治療が必要ですが、ダニにおいても症状が軽くなる事が示されています。ただ抗原を実際に家で投与するので、治療法を患者さん自身が良く知っておくことが必要です。

花粉症の症状の緩和には手術的治療法も行われます。現在広く行われているのは大別して粘膜凝固術と下鼻甲介粘膜切除術に分けられます。花粉症に対しては主に凝固法が用いられますが、その種類はレーザー、電気凝固、化学剤（トリクロル酢酸）、超音波、アルゴンプラズマなど多くがあり、日帰り手術として行われています。

「正しい予防法とケア」

花粉症はアレルギー反応であり、抗原が眼や鼻に入らなければ発症もせず、重症化もしないことを理解してください。また薬剤で症状が止まっていても抗原は入ってきており、抗体の持続的な産生増加があります。薬剤で見かけ上、症状がなくなっているのであり、花粉飛散の多いときにはできればマスクや眼鏡の使用を勧める方が、将来の症状の重症化を防ぐことができます。抗原の回避では以下の点に気をつけましょう。

花粉の回避は①花粉情報に気をつける。②飛散の多い日は外出を控える。窓、戸を閉めておく。③マスク、眼鏡を使う。④外出から帰宅したら洗眼、うがいをし、鼻をかむなどがあります。上手に花粉から逃れられるように先生からのアドバイスも含め、考えて下さい。



通年性アレルギー性鼻炎の原因となるダニ。

NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会の他の活動

1）第2回　NPO定期役員会・総会を開催

日　時　平成27年8月29日（土）　17時～18時30分

場　所　フクラシア東京ステーション（千代田区大手町2-6-1　朝日生命大手町ビル）

2）花粉症・アレルギー性鼻炎 秋季市民講座を主催

日　時　平成27年10月24日（土）15時～16時20分（14時30分受付開始）

場　所　ユニオンビル（武蔵小杉、川崎市）　2階　セミナールームA

参加費　無料

司　会　金井憲一　先生（NPO理事、こすぎ耳鼻咽喉科クリニック 院長）

講　演　「ダニ・アレルギーとスギ花粉症の舌下免疫療法」

松根彰志　先生（日本医科大学 教授、日本医科大学武蔵小杉病院 耳鼻咽喉科部長）

3）第4回　神奈川気道炎症病態研究会を支援

日　時　平成27年10月31日(土)　17時～19時15分

場　所　横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ

座　長　佐久間康徳　先生（横浜市立大学付属市民総合センター　耳鼻咽喉科部長）

講　演　「鼻粘膜局所における抗原特異的抗体産生と鼻副鼻腔炎」

松根彰志　先生（日本医科大学武蔵小杉病院　耳鼻咽喉科　教授）

座　長　幸山　正　先生（帝京大学医学部付属溝口病院　第4内科　教授）

招聘講演　「気道リモデリングとその制御方法の試み」

小林　哲　先生（三重大学医学部附属病院　呼吸器内科　准教授）

4）花粉問題対策事業者協議会への参加　―「認証制度」への参加と協力―

花粉症問題対策事業者協議会とは？（https://www.kafunbusiness.org/ ）

「国民病・花粉症」への対策は、もはや一企業、研究機関、行政だけでなせることではありません。各分野への事業者、研究団体、省庁が一丸となって対策を見出していく課題であり、「オールジャパンで花粉問題対策に取り組む」ことを旗印に、様々な活動を展開しています。事務局は、NPO産学連携推進機構（理事長 妹尾堅一郎氏 http://www.nposangaku.org/）内にあります。

NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会　役員会　リスト

平成27年12月1日現在

役職(1)	役職(2)	氏名	所属　役職
理　事	理事長	大久保公裕	日本医科大学大学院　頭頸部・感覚器分野　(東京都)　教授
理　事	顧　問	奥田　稔	日本医科大学　(東京都)　名誉教授
	顧　問	小川　郁	慶応義塾大学医学部　耳鼻咽喉科　(東京都)　教授
	顧　問	小林一女	昭和大学医学部　耳鼻咽喉科　(東京都)　教授
理　事	副理事長 事務局長	松根彰志	日本医科大学医学部 耳鼻咽喉科学　教授 日本医科大学武蔵小杉病院　耳鼻咽喉科部長　(川崎市)
理　事		大塚博邦	大塚耳鼻咽喉科　(横浜市)　院長、日本医科大学　連携教授
理　事		大西正樹	大西耳鼻咽喉科　(東京都)　院長、日本医科大学　非常勤講師
理　事		金井憲一	こすぎ耳鼻咽喉科クリニック　(川崎市)　院長、昭和大学医学部　非常勤講師
理　事		猿谷昌司	猿谷耳鼻咽喉科　(川崎市)　院長、神奈川アレルギー懇話会　幹事
理　事		澤木誠司	菊名耳鼻咽喉科　(横浜市)　院長、神奈川アレルギー懇話会　幹事
理　事		鶴窪一行	つるくぼ耳鼻咽喉科　(厚木市)　院長、日本医科大学　非常勤講師
理　事		橋口一弘	ふたば耳鼻咽喉科　(東京都)　院長
理　事		山口　潤	山口耳鼻咽喉科　(小田原市)　院長、日本医科大学　非常勤講師
理　事	監　事	大山義之	大山耳鼻咽喉科　(川崎市)　院長
理　事	監　事	坂口文雄	坂口耳鼻咽喉科　(東京都)　院長、東京都耳鼻咽喉科医会会長

賛助会員(団体)

医療法人社団　翔和仁誠会　メディカルグループ　(東京都)　理事長　高松俊輔　http://www.sho-jin.com/iin

社会医療法人社団　正志会　(東京都)　理事長　猪口正孝　http://www.hanamorithp.jp/

「アレルギー週間」と「鼻の日」

◆ 2月17日~2月23日　「アレルギー週間」　日本アレルギー協会

日本アレルギー協会(財団法人)により1995年(平成7年)以来、毎年2月17日~2月23日を「アレルギー週間」とすることが定められました。石坂公成先生がIgE抗体を発見し、米国のアレルギー学会で発表された2月20日を「アレルギーの日」と制定し、その前後1週間(毎年2月17日~23日)を「アレルギー週間」として様々な活動を行っています。東京でのアレルギー週間中央講演会をはじめ、全国の支部で一般の方を対象に様々な催しを行っています。

◆ 8月7日　「鼻の日」　日本耳鼻咽喉科学会

日本耳鼻咽喉科学会では、1961年(昭和36年)以来、毎年8月7日を「鼻の日」と制定して鼻疾患に対する啓発を行っています。制定当時は副鼻腔炎(蓄膿症)の患者さんが多く、社会生活や学業に大きな影響を与えていたので、この疾患の早期発見、早期治療を勧めることを目標にしていました。副鼻腔炎は、軽症化の傾向にありますが、依然、頻度としては多い疾患です。幸い薬剤の進歩や内視鏡手術の普及により治癒率が向上しています。一方、スギ花粉症などのアレルギー性鼻炎は、近年さらに頻度が上昇しており、国民病とまでいわれるようになってきました。また、においの障害は生活の質(QOL)と関連して大きな問題ですが、まだまだ社会的認知が十分でない状況です。

謝　辞

多くの企業様、団体様に「特定非営利活動法人(NPO)花粉症・鼻副鼻腔治療推進会」の活動をご理解、ご賛同いただき、アレルギー週間「花粉症市民講座」の開催、ホームページの開設と運営等ご支援いただいております。ここに心よりお礼を申し上げますとともに感謝の意を込めまして、お名前を掲載させていただきます。(50音順)

今後とも尚一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会
理事長　大久保公裕

アステラス製薬
杏林製薬
協和発酵キリン
グラクソスミスクライン
サノフィ
大正富山医薬品
大鵬薬品工業
第一三共
田辺三菱製薬
東京鼻科学研究所
日本新薬
バイエル薬品
モリタ製作所

平成27年12月末日現在

「謝辞」のページで、ご理解ご賛同いただいた企業様のお名前に欠落がございましたので、ここに謹んでお詫び申し上げますとともに、ここに訂正掲載させていただきます。

特定非営利活動法人　花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会

理事長　大久保公裕

アステラス製薬

MSD

杏林製薬

協和発酵キリン

グラクソスミスクライン

サノフィ

大正富山医薬品

大鵬薬品工業

第一三共

田辺三菱製薬

東京鼻科学研究所

日本新薬

バイエル薬品

モリタ製作所

平成28年　1月末日　訂正

NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会
パンフレット第3号

編集責任者　松根彰志（事務局長）
U　R　L　http://hanamizu.jp/

印　　刷　2015年12月20日
印　刷　所　エヌ・ピー・エフ株式会社（東京都港区）
U　R　L　http://www.npfbros.co.jp